

教室は灼熱の仮設テント

ハンディをささえる
モノづくり通信

福祉機器住宅研究会

発行責任者
代表・杉浦史郎
765-4041

制作協力
朝日新聞大阪本社
読者室
電話06(201)8033



仮設住宅改善のための 大工ボランティアを養成

大工ボランティアを養成

福祉機器・住宅研究会では、阪神・淡路大震災の被災者の方々が住む仮設住宅を少しでも快適な環境にするため、現地のボランティアや被災者に住宅改善のノウハウを指導する「仮設住宅改善のための日曜大工教室」を八月六日、「西神第七仮設住宅」で開催しました。

これは兵庫県社会福祉協議会内に設置されている「学生ボランティアセンター」の依頼によるもので、三十人を超える参加者は、照りつける太陽をものともせず、熱心に作業に没頭していました。



テレビの取材も入って

三宮駅から地下鉄に揺られること約三十分、終点「西神中央」駅。さらにバスで十分ほど行ったところはいわゆる新興住宅が立ち並ぶ一帯ですが、今は、阪神・淡路大震災で被災した方々の仮設住宅が所狭しと建てられています。その一角に「西神第七仮設住宅」があります。

ここで八月六日「仮設住宅改善のための日曜大工教室」が開催されました。

この催し物は、あちこちの仮設住宅で活動をするボランティアが、不衛生な生活を余儀なくされている被災した高齢者や障害者をはじめ住民の方々に、少しでも快適な環境を提供するために、自分たちが大工の技術を身に付けようという開催を希望したもので、実施にあたっては兵庫県社協内に開設された学生ボランティア

アセンターが中心となり、朝日新聞大阪厚生文化事業団がバックアップしたものです。

そして講師は当研究会へ依頼がありました。研究会ではこの依頼を受け、何が必要とされているのか仮設住宅の調査をしました。

七月十五日、副代表の中

住宅に工夫と配慮を

住吉福祉機器展で講演



手話も入り講演する中北氏

八月四・五日の両日にわたり、住吉区福祉機器展（主催・区社会福祉協議会、区医師会、区歯科医師会、区薬剤師会）が同区民ホールで開催されました。

これは当研究会に「住宅相談コーナー」の応援依頼があり、各日もメンバーが三人ずつ担当した。会場全体の来場者は延べ三〇〇人でした。

四日には副代表の中北氏（「住宅改造あれこれ」をテーマに、午前と午後の二回にわたり講演しました。身体加齢にともなう、身体的、感覚的機能が変化することを経験し、細かな配慮が必要となることや、反対に、ちょっとした工夫や配慮が大きな事故を防ぎ、ひいては高齢者の在宅生活が可能となることをイラストを示しながら、分かりやすく話し、多くの来場者が熱心に、興味深く聞いていました。

また午後の部では、手話の通訳もあり、ある聴覚障

ブロックの安定方法を指導する上田講師



り付け方の五点を課題にすることを決めた。

八月十六日、灼熱の太陽は仮設住宅群を照らし、「教室」のために建てられた仮設テントにも容赦はありませんでした。テントによって作られた小さな陰を求めてもの救いに「教室」がスタートしました。

研究会からは代表の杉浦氏をはじめ、計七人が参加

しました。テレビ朝日の取材もあり、その日の屋のニュースで放映されました。

参加者は当初、少ないのとは心配されましたが、三十人を超える盛況ぶりです。学生を中心に被災者自身も参加し、恐らくは体温をはるかに超えていたであろう気温をものともせず、上田氏の講義に熱心に聞き入っていました。

また仮設住宅に住む一人暮らしの高齢の婦人が、モデル住宅として自家を提供した。課題の一部を取り付けた後の様子ですが、が随時、訪問に見せていただき、取り付けの良さをより実感することができました。

時計が三時を指す頃、参加者は課題を一応クリアしましたが、今日の実習をもうひと活動したあと、もう一度、質疑応答を含めた「教室」を開いていただきました。この要望がありました。

これに対して杉浦代表から「皆さんが被災地で、より充実したボランティア活動が展開できるよう今後も連携を保っていきましょ

コトバ ことば

「公的介護保険」
医療は保険証の提示によって、誰でも、いつでも受けることができる。その機関（病院や施設）を選択していくことができる。

この仕組みを「介護一において導入しよう」というのが「公的介護保険」で平成9年度新聞の世論調査（8月24日付け朝刊）によれば、導入に「賛成」が68%にのぼり、「反対」は12%にとどまった。また賛成の理由は「高齢化問題は社会全体で取り組むべきだから」が53%でトップだが、反対の理由のトップは「十分な介護サービスは期待できないから」が38%である。導入には国民の信頼が得られるものであては

害者が「ふだん聞けない話」なので、参考になり、大変良かった」と感じそうに話してくれました。

各区社協などが開催する福祉機器展への協力要請が増えています。住宅相談のコーナーがあるというところが、区民に事前告知されていない場合が多く、会場での相談ケースはあまり多くないのが実情です。

当研究会として応援できることはできるだけ要望に答えていきたいですが、「区民への事前告知」と、「できるならケース内容」を開会前に掌握したくない。研究会に事前に報告していただければ、より適切なアドバイスがさせていただきます。ことができますので、各主催者の協力をお願いしたいところです。

「この保険が導入されれば、特別養護老人ホームなどの施設入所や在宅サービスの利用が

う」との話があり、九月頃に再会を約束していました。

たぎるような暑さの中で「教室」でしたが、現地で活動する学生ボランティアの皆さんが参加者のために、ポットに水をいっぱい入れたお茶をたくさん用意して「いくらでも飲んでください」と気を遣っていたのは、大変に有り難かった。こんなに冷たいものを飲んだことがないと思うくらい、おいしかったのです。

ひとつの出会いと真心に感動し、ボランティア活動のすばらしさをまたひとつ心に積み重ねることができた「教室」でした。

事例1

店からの移動が安全に

○さん・77才・男性
A トイレを和式から洋式に改造してほしい。店(たばこや)・浴室、トイレなど2人暮らし。ともに杖歩行。
B 本人は首の骨のずり、奥さんはリウマチで身体障害者手帳1級、老夫婦二人暮らし。ともに杖歩行。
C トイレの広さが約80cm四方しかなかったのので、廊下まで広げて改造し、温水洗浄、暖房便座つきの洋式便器に変えた。



出入りはハネ上げ式手すり

店の上がりがまち、商品棚、トイレへの通りみち、トイレ、浴室にそれぞれ手すりをつけた。とくに上がりかまちの手すりは、登り降りのためにハネ上げ式とした。
D 完成時、ご主人は入院のため使用の検査ができたが、奥さんは非常に歩行が容易となり喜んでいただけた。
息子さんの後日報告では、改造に反対されていたご主人も喜んでおられるとのことでした。
また、病気の進行により歩行支援の状況も変わりますので、後日訪問の必要を感じます。

プロのコツを体得?

盛況だった大工講座

平成7年7月8日(土)は、日曜大工ボランティア講座の最終日とあって、全員の出席の盛況でした。

『内装のABC』は、愛床コンサルティング代表の吉野泰氏の「壁装材」の講義から始まりました。

「目録の位置で柄合わせをする」「のりをつける時、まわりは原液を中は1/2倍に薄めたのを」など壁紙を貼るコツを、歯切れのよい口調で話してくださいました。

「クッションフロアシート」の貼り方は、実物を部屋の形に合わせて切っていきます。平行定規を壁に沿わせながら、飛び出している柱部分や配管の円形をくり抜き、壁面びつりに合



みごとにピッタリ



説明もテキパキ振淵講師

いました。「すごい!」まわりから思わず歓声があがりました。
次は部屋の真ん中で2枚のフロアシートを継ぎます。これもびつたり合いました。さすがプロです。いとも簡単に出来上がりまし

た。さあ、実際に家でもやってこんなふうにくっつけておなかを合わなくて、クッションフロアシートがだんだん小さくなっていくのが目に浮かびます。ティッシュペーパーを小さく丸めてボイ、たぐさん水に浸してトンを同じよう

事例2

ベッドからスムーズに

Kさん・90才・女性
A ベッドからの立ち上がりは容易にしたい。
トイレに手すりを設置したい。
B リウマチにより歩行が困難。
木造のかなり古い家屋。

てほしい。
C ベッドのそばの柱に縦方向の木造手すりを取りつけた。
トイレは間口が狭いの

で、依頼者や区の関係者に非常に喜ばれました。



始めてですが



うまくできました

で、片方の壁面に手すりを取りつけた。
D 会員の伊野氏に始めて手すりを取りつけてもらった。最初は多少とまどいもあった。
すぐに要領を会得してもらった。
完成後使用してもらったベッドからの移動が非常にスムーズに行けるようになったと、感謝の言葉をいただいた。
今回は依頼を受けてから完成まで、比較的短時間で対応できたせいもある

良心的な業者募集

当研究会が発足して二年になりますが、その間に、数多くの福祉機器の製作や住宅改善に携わり、住みやすさの向上に貢献してきました。良心的な業者の登録をお待ちしています。特にトイレ、浴室などの水まわりの工事が出来る業者を歓迎いたします。詳しくは事務局(〒654-0441) 宇賀神まで

会員プロフィール

野口仙治・社団法人老人文化会。民放で医療番組を長年にわたり制作。その後もメディアの分野の仕事を中心として続けてきた。最近では在宅医療、在宅ケアに関心があがり、バリアフリーの実践と問題点を勉強させていただきたい。広報活動などで協力したい。
鎌田伊津子・中北建築事務所。2級建築士。住宅の改築、設計に関する事で協力したい。
西畑博子・訪問看護婦。高齢者、障害者対応のいろいろな問題に対するアドバイスができる。

定例会のお知らせ

(十月)
日時・十月七日(土)午後一時半~四時十分
場所・大阪市立社会福祉センター三〇五会議室
テーマ・『企業・労組ボランティア活動連携セミナー』
その1(二時半) 大阪市内の企業ボランティアの展開
講師・関西電力(株)
(十一月)
日時・十一月四日(土)午後一時半~五時
場所・大阪市立社会福祉センター三〇五会議室
テーマ・『色彩が人体に及ぼす影響』
講師・ジャパン・カラーマーケティング研究所
代表徳永聖一郎氏

地域共生本部地域共生グループ課長絹川正明氏
日時・十一月四日(土)午後一時半~五時
場所・大阪市立社会福祉センター三〇五会議室
テーマ・『色彩が人体に及ぼす影響』
講師・ジャパン・カラーマーケティング研究所
代表徳永聖一郎氏